

令和3年度 学校経営方針

渋谷区立幡代小学校長 奈良佳津志

1 学校経営の基本理念～めざす学校像

学校は児童をかけがえのない存在としてその多様な可能性を見出し、教育活動を意図的・計画的・組織的に展開する場である。今日、学校は児童一人一人の個性豊かな人間形成をめざしこれからの社会を積極的・前向きに生きていくために必要な「生きる力」を培うことを使命としている。したがって、そのための基礎的な学力（習得・活用・発展）や体力の充実、児童一人一人がもっているその子のよさを最大限に伸ばしていくことが重要である。そのために以下のような学校像をめざす。

- (1) 確かな学力と健やかな心身をはぐくむことのできる学校
- (2) 保護者・地域の信託に応えることのできる学校
- (3) 教職員が生き生きと働く学校

《渋谷が目指す学校像》一人一人の子供の能力を最大限に伸ばす渋谷の学校

2 教育目標と目指す児童像

心身ともに健康で、知性と感性に富み、人間性豊かに生きる児童の育成。

- 元気な子供…心と体の健康づくりに意欲的に取り組む児童の育成を目指す。
- 考える子供…自分の考えをもち、それを表すことのできる児童の育成を目指す。
- やさしい子供…豊かなかかわりを大切にする児童の育成を目指す。

《渋谷が目指す子供像》自他の生命を尊重し、ルールを理解し、よく学び努力する渋谷の子供

3 学校経営上の基本方針（下線 は渋谷区令和3年度の重点）

渋谷区教育委員会の教育施策に則り、次のような学校経営上の基本方針を設定する。また令和2年度から導入となる新学習指導要領を、休校期間を考慮した上で確実に実施する。

(1) 確かな学力の定着

学習指導要領の理念をもとに、児童一人一人に基礎学力を定着させるとともに学力向上を目指す。そのため以下のような視点で教育活動の充実・改善を図っていく。

① I C T機器を確実に活用した教育活動の推進

- 一人一人に確かな学力を身に付けさせるために、週毎の指導計画の中にねらいやI C T機器の活用場面を明記し計画的に授業を進めるとともに、評価方法を工夫する。
- I C T機器を活用するための教材の工夫・開発を行い、それを蓄積し、他の教員に広めていく。
- 新型コロナウイルスの影響を考慮し、オンライン授業の実施を念頭に置いた指導計画を立てる。

② 指導体制、指導方法の工夫・充実

- 少人数指導やT Tなどの協力的な指導を行うことにより、習熟度別、課題別の指導の推進を図る。
- 主体的・対話的で深い学びのある授業展開を構築するための、話し合い活動の充実、I C T機器の活用、問題解決学習の展開など学習形態の工夫を図る。
- 児童の学習の成果を取り上げ、意欲につながる評価等に工夫を凝らし学習意欲を喚起させる。

③ 東京都教科担任制推進校としての実践を学力向上につなげる。

- 5, 6年生において教科担任制を実現することで専門性の高い教科指導を実現する。
- 学年・専科のまとまりで、より多面的・多角的な児童理解の促進を図る。

④ 渋谷区教育委員会研究指定校としての校内研究の充実

- 「児童が主体的に取り組むシブヤ科の学習」を研究主題とし、「生活科」「総合的な学習の時間」を中心に、各教科等との関連を図りながら校内研究を進める。
- 令和2, 3年度、渋谷区教育委員会研究指定校として研究を進め、その成果を、区内外に発表する。

(2) 心身ともに健康な児童の育成

日々の生活や授業を通して、きまりをまもる、礼儀正しくする等、規範意識の向上をめざし、心を育てる工夫をする。一人一人の思いや願いを取りあげたり、互いのよさを認め合ったり、考え方の違いを尊重したりすることを通して人権意識をはぐくむ教育を進めていく。また健康・体力の増進のための取組を続けていくことを重視する。

- ① 新型コロナウイルスの影響を克服していく心身の育成。
 - 感染症に対して正しい知識をもち対応するための防疫教育を実施する。
 - 感染症に対する偏見や差別意識をもたないような行動選択ができるようにする。③と関連付ける。
- ② 生活指導の重点項目「あんぜん、あいさつ、あつまり、あとしまつ」の徹底。
- ③ 日々の生活や授業の中での人権尊重の精神の育成。公德心、生命尊重、自尊感情、思いやりなどの道徳性を養う道徳教育の充実。
- ④ 心穏やかな児童を育むための安全な環境づくりや組織としての迅速な対処。
- ⑤ 人間のもつ多様性への理解を深める教育の推進。
- ⑥ 児童が体を動かす楽しさを味わわせるための働きかけや環境整備。児童の遊ぶ時間の確保や継続的に将来にわたって運動する習慣を身に付けさせるための工夫。
- ⑦ 令和3年度に開催される、東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて児童の参画機運の継続・醸成。

(3) 父母・祖父母・先人を敬い、地域・郷土を愛する心の涵養

本校は今年で、創立139年となる歴史と伝統を有する学校である。本校を支え発展に尽力された先人達の熱き心、ご労苦に思いを馳せ、伝統ある学校に学ぶことの誇りをもたせると共に父母・祖父母を敬い、学校・地域を愛する心、国を愛する心を涵養することを課題としていく。

① 渋谷シティプライドの育成

○渋谷区への誇りと愛着をもち、未来の渋谷を創造する担い手を育成する。

- ・児童に郷土「しぶや」の文化や伝統を理解させ、国際的な感覚も育てる。
 - ・地域清掃を行ったり地域行事に参加したりして、児童に地域社会の一員としての自覚をもたせる。
 - ・令和3年度渋谷区教育委員会研究指定校として、「シブヤ科」について生活科及び総合的な学習の時間を中心に研究を進め、区内外に発表する。
- ② 日本各地で起こった災害や感染症の被害を忘れず、防災・防疫意識を高めると共に日本人の一人としてその復興に向けた意識を持続させる取組を進める。
 - ③ コミュニティ・スクールの実施に向けた取組
 - ・児童の心身の健全な育成のために、地域の教育力を学校教育に生かすようにする。
 - ・「地域とともにある学校づくり」を実現するために地域コーディネーターの活用を促進する。
 - ④ 周年記念事業の推進
 - ・令和3年度の幡代小学校創立140周年に関わる事業を実施する。

(4) 特別支援教育推進に向けての理解・啓発

- ① 「幡代学級」における自立の力の確立。通常の学級との交流の推進。
「心身の健康・安全」「集団への参加」「基本的な生活習慣の育成」
- ② 特別支援教室「いちよう」における集団生活への適応。巡回指導の充実を図るための連携。
「コミュニケーション能力」「自己の行動を調整する力」「自己肯定感の向上」
- ③ 特別支援コーディネーターを中心に校内委員会を機能させ、保護者、カウンセラー（都・区）、関係諸機関と連携しながらの効果的な支援体制の確立。
- ④ 通常の学級の経営に生かしていくための、特別支援教育についての理解。

4. 経営の重点と具体的取り組み (◎は幡代小の今年度の重点課題)

経営の重点	目 標	目標達成に向けての取り組み
確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・思考力・判断力・表現力の向上 ・きめ細かな評価と指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT教育推進のためのタブレット端末等の活用。 ◎教科担任制のメリットを生かした授業展開を推進する。 ◎「シブヤ科」のモデル作成に向けた授業実践の蓄積。渋谷区教育委員会研究指定校としての取組。 ○言語能力の向上を図るための、辞書の活用、「ぐんぐんタイム」「音読」などの実施、話し合い活動の充実。(H25～27 言語能力向上推進校・拠点校、H27～29 特別活動の校内研究) ○学校図書館専門員、図書ボランティア、本の森等を活用した読書活動の充実、図書館利用の推進。 ○学習指導要領の理念に基づいた授業改善の取組、および評価・評定の方法・内容の見直し。
豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスへの対応 ・思いやりの心の育成、集団維持機能の充実 ・児童の安全・安心の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◎感染症に対して正しい知識をもち、偏見や差別意識につながらない行動選択のための指導の充実。児童が規律ある生活を送るための「幡代子どもの1日」「SNSルール」の徹底。 ○人間関係を学級経営の基盤とした児童一人一人の状況把握と情報の共有。「道徳科」の授業の充実。 ○特別支援教育の充実。特別支援コーディネーターや生活指導担当者、カウンセラーの効果的な関わり。「幡代学級」「特別支援教室いちょう」の機能の強化。 ○たてわり班活動、地域清掃などの取り組み。 ◎渋谷の文化・伝統に関する扱いの具現化。校内研究との関連。 ○危険防止、安全管理、防災・防疫教育の徹底。
たくましい体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスへの対応 ・体力向上と心身の健康増進 ・体験的活動の重視 	<ul style="list-style-type: none"> ◎感染症に対して正しい知識をもち、健康な生活を営むための行動選択ができるようになる指導の工夫。 ○体育専科の活用を含めた体育授業の充実。例示教材の確実な実施および指導の工夫。体の諸器官を使った活動の推奨。「体力・運動能力調査」の活用。 ○体育科研究の成果の利活用。(H30, 31 体育科の校内研究) ○休み時間や放課後校庭開放での外遊びの推進。 ○給食指導との関わりをもたせた食育指導の充実。 ○学校行事、体育的活動、地域と関わる活動の実施。
信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域との連携 ・他校種との連携 ・組織・運営上の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ◎コミュニティスクール、地域コーディネーターの運用。PTA活動、地域関係者との関わりを重視した連携強化。 ○幡代小学校創立140周年記念事業の推進。 ○保護者・地域への情報の発信および収集。児童、教職員の地域行事への参加。地域人材の学校への参画。 ○「小中連携の日」「就学前オープンスクール」の実施。 ○特別支援教室拠点校としての巡回校との連携。 ○報告、連絡、相談体制の徹底。週案の確実な提出と記録。 ○主幹教諭、主任教諭、各主任の機能発揮。組織の活性化。 ○若手教員の指導体制の充実。「チーム幡代」の活用。 ◎防疫・防災意識を高めるための教育や環境の充実。

5. 教師の取り組み姿勢について

《渋谷が目指す教師像》子供、保護者、地域から信頼され尊敬される渋谷の教師

(1) 強い使命感と情熱をもって指導にあたる教師。

○日々研鑽を積み、教育職員としての専門性を高める。

- ・多忙な中でも公私の時間の区別、健康増進の取組、文化の吸収、情報収集、趣味、読書などのワークライフバランスを保つことを心掛ける。
- ・人権感覚やコミュニケーション能力の向上を図る。

○子供のよさを伸ばし、集団維持機能を育てる。

- ・基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- ・学校・学級のきまり、一人一人の自律的な生活を発達段階に応じて指導する。

○一人一人が大切にされる学校をめざす。

- ・特別支援教育の意義を理解し、通常の学級における課題のある児童の指導に活かす。
- ・教育相談の充実を図り、個別対応が必要な児童の全職員の共通理解、保護者・関係諸機関との連携を重視する。
- ・個に応じた学習を保証できるよう指導の工夫を図る。

○安全・安心な学校づくりを推進する。

- ・学校での事故、健康状況の異変、食物アレルギーなどへ迅速に対応する。
- ・施設・設備の安全点検や不審者対応の体制を確立する。
- ・安全教育、防災教育の充実を図る。

○保護者・地域との連携を図る。

- ・学校公開、学校便り、ホームページをはじめ様々な方法で学校の状況を紹介していくとともに、外部評価を学校運営に生かしていく。
- ・保護者・地域の教育力を学校教育に取り込むとともに、地域の活動に積極的に参加する。
- ・コミュニティ・スクールの機能を理解し、学校・学級運営に生かす。

(2) 協力・協働の精神をもつ教師

- ・教職員が授業力や児童理解の専門職として互いに切磋琢磨しながら能力向上を図るよう校内研究、研修を充実させる。
- ・指導上の悩みや課題を、個人としてではなく全教職員・学校の問題として受け止め、組織として支援していく体制を築く。相互チェックと相互承認を心がける。
- ・経験豊かな教員による指導・助言、若手教員の活力の発揮等により、共学・協働の組織が機能する学校運営をめざす。促進的なリーダーシップの発揮と相互サポートの重視。
- ・教員、事務、用務、給食等の全職員がそれぞれの専門性を発揮するとともに情熱をもって仕事ができる環境作りをする。
- ・各教職員が経営感覚を磨き、伝統ある幡代小学校を自分の学校として誇りをもつ。
- ・サービス規準の厳守、サービス事故防止を徹底する。特に個人情報の扱いや体罰防止の徹底を図る。

6. その他（予算、会計、施設・設備等）

(1) 限られた予算の有効活用と適正な執行、学校施設、教材・教具の有効活用を図る。

(2) 児童増、学級増への対応を、教職員一丸となっていく。

(3) 適正な会計処理を行う。

(4) 光熱費・水道費の削減、物品の再利用やコピー数削減など節約に努める。児童への指導の中でもコスト意識や物を大切にすることを向上させる。

(5) 災害地復興、感染症対策のための意識付けや取組を、安全・防災・防疫教育も含めて教育活動の中で継続していく。